

道徳科学習指導案

令和5年2月7日1年1組
授業者 八王子市立宮上中学校
主幹教諭 海老澤 宏

- 主題名 「内なる規範」
- 内容項目 C10 遵法精神。公德心
- 教材名・出典 「仏の銀蔵」 中学校読み物資料集 平成24年3月 文部科学省
- ねらい

銀蔵とその周りの人々の姿を通して、義務を果たして規律ある安定した社会の実現に努める態度をはぐくむ。

指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の意点
導入	1 「高利貸し」について説明を聞く。	○「高利貸し」とは何か。 参考画像→スクリーン使用 ・利息が高い金貸し。(☆ICTの活用) ・お金を貸して商売する人	・教材への導入とする。
展開	2 教材「仏の銀蔵」を読み、考える。 3 規範意識について多面的・多角的に考えを深める。 4 よりよく生きようとする心について深める。	○どんな話か。 ・金貸しがいい人になる話 ・人々がとても優しい話 ○「お天道様」とは何か。 Forms～テキストマイニング使用 ・神様 (☆ICTの活用) ・良心 ・心の中のルール ◎その奥にどんな思いや願いがあるのか。 ・安心して暮らしたい。 ・人を疑いたくない。 ・正しく生きたい。 ・明るく生きたい ・誇りをもって生きたい。 ・安全に生きたい。 ○それはどうしてそうなのか。 ・悪い人がいるから。 ・つい悪いことをしちゃうこともあるから。 ・人間は弱い生き物だから。 ・後ろめたくなく生きたいから。 ・お互いが信頼できるようになりたいから ・世の中をよくするため。 ・安心できる社会にするため。 ○何が必要か。 ・正義感 ・プライド ・ルール	・教材を範読する。 ・範読后感想等を交流し話の骨格を押さえる。 <補助発問> 「証拠もないのになぜ借金を返すのか」 「どこにいるのか。」 「何をしているのか。」 「見られるとどうなるのか。」 「何で必要なのか。」 「人々は何に気が付いたのか。」 「銀蔵は何に気が付いたのか。」 「何が変わったのか。」 「お天道様の下でどう生きたいのか。」 「基準は何か。」 「何が支えるのか。」 「きまりがあればいいのか。」 ・人々や銀蔵の思いにも触れる。 ・出された意見を問い返し共に考える。 ・人間の尊厳の大切さに気づかせる。
終末	5 よりよい生き方について考えたことをまとめる。	○今日の学習を通して「よりよく生きようとする心」について考えを整理しよう。	・ワークシートに今日の学習を終えて考えたことを整理し、交流する。

6 評価

- ・良心の声に耳を傾け、規範を尊重し、規律ある安定した社会を実現することについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させて考えた発言や記述が見られたか。
- ・良心の声に耳を傾け、規範を尊重し、規律ある安定した社会を実現することについて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めて考えた発言や記述が見られたか。

■主題設定の理由

社会があれば何らかのきまりがある。法やきまりは社会に秩序を与え、住みよい社会をつくるために人間の知恵が生み出したものである。しかしながら本来の機能が見失われ、利害関係の調整ばかりか、一部の人の利益のために悪用されてしまうこともある。

きまりを守ることで個人の自由が保障されることを理解し、本来の目的のためにきまりを運用できるようになることは、よりよい社会生活を送る上で極めて重要である。

中学校に入学して間もない段階では、法やきまりに従えばそれでいいと考え、破るものに対しては罰を与えればいい、と、他律的、外罰的に考える生徒も多い。年齢が上がるにつれて法やきまりの意義を理解できるようになり、ルールに守られよりよいルールを見つけながら生きていこうという自覚も深まってくる。その一方で、法やきまりは自分達を拘束するものと捉え、自分の権利は強く主張するものの、義務を果たすことには反発したり消極的になったりしてしまうこともある。

法やきまりを他律的に捉えるのではなく、自己本位に運用するのでもなく、互いの関係を誠実で節度あるものにするための行動の目安としてきまりを守る態度を育てたい。そして、内なる規範にも目を向け、良心の声に耳を傾け、目の前の相手や社会の仕組みなどに思いをめぐらせながら、正しく生きたいと願う、人間本来の、誇りをもって自立して生きようとする心を育てたい。

自他の権利の尊重と自由と責任、誇り、その基盤となる誠実や思いやりの心についても考えてよりよい社会をつくるためにきまりを守る態度を養いたいと願い、本主題を設定した。

■指導の工夫

法やきまりの本来の目的を忘れ私腹を肥やすことに活用した銀蔵が証文をなくしひどい目に遭う話である。銀蔵はその後、人々の行為を見て腕組みをしたまま考え続け、新しい生き方に気づく。

銀蔵は法律違反をしていた訳ではない。それどころか法に則って商売をしていた。なのにどうして「鬼」なのか。法を使う人間の心のありようの大切さを示唆している。また銀蔵を「鬼」と呼んだ人々は証文を失った銀蔵に対し最初とはぼけごまかしていたが、金を返しにいくようになる。なぜか。借りたから返すだけなら証文をなくした銀蔵に対しごまかす必要はない。「貧しいが、盗人にはなりたくねえ。」とはどういうことか。どういう思いがあり、銀蔵に何を与えたのか。

銀蔵が何に気づいたか問う方法もあるし人々がなぜ金を返したか問う方法もある。しかし奥にある規範意識について取り上げ話し合いに持ち込むまで時間がかかる。話の骨格を押さえたらすぐに「お天道様」を取り上げ規範意識の一つの象徴と捉え子どもの自由な発想を生かし意味を探る。物語の筋を追うのではなく「お天道様」を軸に銀蔵や人々の心情に触れ、出された意見を問い直してさらなる思考を促し、ねらいとする価値に迫りたい。

また、中心発問の前に ICT を活用すると内容が深まる、という研究を受けて、『お天道様』とは何か。」でテキストマイニングを活用して視覚化し、補助発問「どこにいる?」「何をしている?」「そんな見えないものが何かの役に立つのか?」でイメージを膨らませ中心発問につなぐ。

ワークシートは終末でのみ使うようにして導入～展開では対話に専念したい。

■板書計画

